

新聞紙や段ボールなどの古紙のリサイクルは！

～紙は古紙からつくるをテーマに取り組む～

私たちの日常生活に、紙製品は欠かせません。

新聞紙、雑誌、パンフレット、チラシ、段ボールなどが使われた後は、古紙になります。

今回、ごみ減量3R推進委員会は、古紙を段ボール原紙に再生している松本市の古紙再生のスペシャリスト「**王子マテリア(株)松本工場**」を見学しました。

この工場では、いろいろな古紙を一日に399トン（これは人口66万人の都市から一日に発生する量に匹敵）を再生しています。工場内の最新鋭の設備により、古紙処理工程を経て、**段ボール原紙**が作られます。

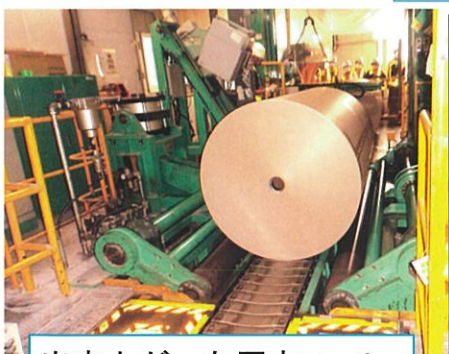


段ボール原紙は、工場内の抄紙工程（蒸気加熱で乾燥、紙をフェルトに押し付けて脱水する）を経て、仕上げ工程で紙を巻取りなどして、製品にしていきます。



集められた沢山の古紙の山

この工場は「紙は古紙から作る」をテーマに全力で取り組んでいます。この「紙のリサイクル」は資源の有効利用となるだけでなく、古紙からパルプを作るほうが、木材からパルプを作るより工程が簡略化される分、消費するエネルギー（熱や電力など）が削減できるというお話を伺いました。



出来上がった巨大ロール

- 1、パルプ化**—工場に届いた古紙を種類ごとに分け、異物を取り除き古紙を水と混ぜて繊維をほぐし、再生パルプを作ります。
- 2、抄紙工程**—パルプを薄く広げて水分を抜き、乾燥後、紙の形にします。
- 3、巨大ロールへの巻き取り**—出来上がった長い紙を、幅数メートル・重量数トンの巨大ロールに途切れることなく巻き取ります。この紙は安定した品質を保ちながら次の工程へ進みます。
- 4、仕上げ加工**—巻き取ったロールを用途に合わせて裁断し、段ボール原紙や印刷用紙などに加工します。

紙のリサイクルで、

木材を使用しないということは、森林資源を大切にしていくことに繋がります。紙のリサイクルが、ごみの削減・省エネにつながるなど、この工場で行われる工法や設備が、大きくは、環境保全から地球に対してもやさしいことを目指していることなどをお聞きし、私たちも更に紙のリサイクルを進めなければいけないと強く感じました。



いろいろな製品の箱になります。



塩尻市の「塩尻クリーンセンター」(中継施設)を見学しました。



かわいいピンクのEVパッカー車



施設の説明を受けるアドバイザーの皆さんです。

施設に、市民が燃えるごみを運んできました。このごみは、松本クリーンセンターへ運び処理されます。

松塩地区広域施設組合は、平成24年4月より、松本市クリーンセンターで共同処理を行っております。塩尻クリーンセンターは、松本クリーンセンターへ運ばれる前の中継施設として、朝日・塩尻地域に住んでいる方が、持ち込める生活系ごみ(焼却ごみ)の窓口となっています。

東御市の場合も、上田地域広域ごみ処理施設ができた場合は、このような中継施設が必要になるのではないのでしょうか。

参加された皆さんは、一様に、東御市もいずれはこのような中継施設が必要になることを思い、現在のクリーンセンターのこれからの役割を想像させられた視察でした。



初めての試み・・・「暮らしを見直そう展」は「巨峰の王国まつり」と同時開催で行いました。

例年、11月に開催していましたが「暮らし見直そう展」は、中央公園で行われた、9月の「巨峰の王国まつり」と同時の開催で行いました。



環境PR班はペットボトルのキャップで「針刺しづくり」の体験コーナーを設置し、大勢の皆さんに作っていただきました。

暮らし見直そう展は、ゼロカーボンイベントも含め9団体が体験ゲームや展示などをしました。ごみ減量3R推進委員会は、「古布リサイクル班」が、リサイクル用品を販売、「ごみを減らす工夫班」がキャップ投げ遊び、「環境PR班」がごみ減量をPRしました。

初めての野外の取り組みでしたので「展示内容をもう少し工夫すること、リサイクル用品が好評で早く売れてしまったので、量を増やすこと、キャップを集めることの内容を記した展示があればよかった」などの反省がありました。また、ごみ減量に関心を持っていただける取り組みが必要と感じました。

問合せ先 東御市ごみ減量3R推進委員会(ごみ減量アドバイザー・環境PR班)
事務局 生活環境課クリーンリサイクル係
(連絡先) (東部クリーンセンター内) TEL・FAX 63-6814